

# 技術者教育としての 群馬大学アナログ集積回路研究会

---

群馬大学大学院 工学研究科

電気電子工学専攻

小林春夫



# 社会人教育の難しさ

---

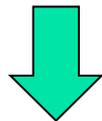
長期的には:

社会人教育・企業内技術者教育は必要。

短期的には:

教育時間中は その技術者は  
会社の仕事をしていない。

突発的・急な仕事が入った時の  
職場での対応が大変なことがある。



研究会は自由経済(産業界)に干渉しない



# 社会人教育のジレンマ

---

## 社会人教育の目的

- その人の能力向上
- 産業競争力を高める

教育に仕事の時間を使うと、  
産業競争力が向上できない という側面あり。



大学は協力しても干渉すべきではない。  
逆もしかり。



# 社会人教育に対する研究会の立場

---

- 勉強の機会を提供する。
- 参加を(半)強制しない、予約制をとらない。
- 参加費は無料。  
(土曜日開催の場合や平日開催でも休暇をとり個人として参加している人もいる)
- 希望者はだれでも参加を受け入れる。

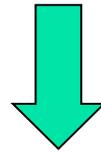


産業界には 少なくともマイナスにはならない。

# 撤退は後退ではない

## — 戦略的撤退は前進となる —

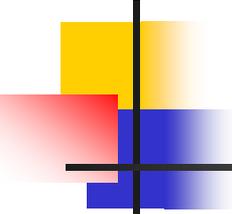
義務を負う、負わせる「社会人教育事業」から完全撤退。



空いた時間・エネルギーを本来の研究教育に。義務を負わない「社会人教育、研究室教育(アナログ研究会)」に注力。



結果として、研究室は非常に良くなった。



## 技術者への精神的支援

---

かつて、エレクトロニクス分野での  
大学と産業界での研究教育はかなり乖離。

→ 技術者として、一抹の寂しさを感じていた。

大学で、産業界とベクトルを同じ方向に  
向けた研究教育を行う。

→ その分野の技術者への精神的支援になる。